

積に関しても、それが障害とならないという立場を明確に示していくべきである。これらの事項は民間の各種試みを抑制しており、それだけの措置がとられれば、わが国においても細胞・組織の供給が相当に活性化することが期待される。

3. 再生医療に関する意識調査—インターネットリサーチ—

町野朔（上智大学生命倫理研究所）

一般国民における再生医療に関する知識や態度の実態を把握することを目的として、インターネットリサーチによる調査を実施した。

調査対象は、インターネットリサーチを専門に行っている株式会社マクロミルに登録されているモニタ会員とした。性（男、女）、年齢階級（20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60・70歳代）、地域（北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）の層別に、日本の人口において各層の占める割合にほぼ比例した標本数を割り当て、無作為抽出した成人4168名を対象とした。調査対象者は、データが商品開発や研究などに利用されることを承諾して登録した会員であり、個人情報の保護は同社により実施されている。

調査は、2013年2月22日（金）～24日（日）の3日間、株式会社マクロミルのホームページ上で実施した。調査項目は、再生医療に関連する用語（臓器移植、再生医療、幹細胞、iPS細胞、ES細胞）の認知度、再生医療における細胞の使用・提供の意思、自身が提供した細胞の所有権、使用状況に対する情報提供、製品化に対する態度、細胞バンク等の利用意思、臓器、組織・細胞の扱い（「物」としての扱い、売買）に対する態度、組織・細胞の配分の範囲及び規制に対する態度、再生医療の安全確保への国の関与に対する態度などであった。

現在データの分析中であるが、必要に応じて中間結果を厚生労働省に提供して、検討会等の資料として活用してもらおう予定である。また最終結果は来年度の報告書に掲載する予定である。

Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧表

【書籍】

著者名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
辰井聡子	終末期医療とルールの在り方	甲斐克則	医事法講座第4巻 終末期医療と医事法	信山社	東京	2013年	211-230
米村滋人	公的社会保険給付と私法契約	水野紀子	社会法制・家族法制における国家の介入	有斐閣	東京	2013年	91-114

【雑誌】

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
米村滋人	医事法講義(2)～(13)	法学セミナー	57巻5号・6号・7号・8号・9号・10号・11号・12号・58巻1号・2号・3号・4号	100-104・94-98・108-112・124-128・96-100・108-112・99-103・96-100・100-104・98-103・101-105・110-115	2012年・2013年
米村滋人	「利他的医療」の法原理と国家法	JEMCジャーナル	10号	28-34	2013年
辰井聡子	重篤な疾患で昏睡状態にあった患者から気道確保のためのチューブを抜管した医師の行為が法律上許容される治療中止に当たらないとされた事例 一川崎協同病院事件上告審決定	論究ジュリスト	1号	212-216	2012年

